

主 論 文 要 旨

No. 1

| 報告番号 | 甲 乙 第 号 | 氏 名 | 綱井勇吾 |
|---|---------|-----|------|
| <p>主 論 文 題 目： 外国語学習者による語の意味の獲得に関する研究 - 英語の「壊す／切る」系動詞を例として -</p> | | | |
| <p>(内容の要旨)</p> <p>異なる言語は異なる基準で世界を名づけ分ける。したがって、外国語を習得するという事は、母語とは別の基準で世界を名づけ分け直すことに他ならない。従来の研究は、母語よりも目標言語の方が細かく語を使い分ける場合、成人学習者は母語を基盤に目標言語を運用しがちになり、目標言語の成人話者と同じ意味表象を持つのは容易ではないことを示してきた。しかし、目標言語と母語の関係は一様ではない。母語の方が目標言語よりも細かく語を使い分ける場合もあれば、その逆もある。母語と目標言語が同じ程度の細かさで語を使い分けるが、切り分け方が異なる場合もある。このような目標言語と母語との関係の違いが外国語の語意学習にどのような影響を及ぼすのかについては十分な研究がなされていない。</p> <p>本研究は、「壊れる」-”break”に関連する動詞群を題材に (1) 日本語を母語とする外国語 (英語) 学習者が目標言語をどのように使い分け、どのように語と語の関係を理解しているのか、 (2) 目標言語の使い分け方と母語の使い分け方はどのような関係にあるのか、 (3) 目標言語の習熟度により目標言語の使い分け方も変化するのか、という3点を明らかにするために行われた。本研究が扱う「壊れる」に関連する意味領域は、日本語、英語ともに比較的多くの動詞を持ち、細かく語を使い分ける。つまり「目標言語と母語がどちらも細かく語を使い分ける領域」である。本研究ではこの場合に、成人学習者がどのような意味表象を持ち、どのような場合に学習が困難になるのかという点を理解と産出の両側面から実験的に検討した。</p> <p>調査では、日本語母語話者、英語母語話者、日本人英語学習者に「壊す」「割る」などのモノに力を加えてモノの形状や機能を破損させる場面を見せ、どのようにそれぞれのシーンを名づけるのかを比較した。さらに、動詞と名詞を総当たりで組み合わせた様々な文を見せ、自然な文かどうかを尋ねる実験も行った。</p> <p>実験の結果、目標言語と母語がどちらも細かく語を使い分ける場合でも、成人学習者が目標言語の成人話者と同じ意味表象を持つのは容易ではないことが明らかになった。一方、学習者は母語にすべて依存して目標言語を使い分けているわけではなく、目標言語とも母語とも異なる基準で語を使い分けることがわかった。この結果は、目標言語と母語の関係により外国語語意学習における母語の影響の仕方が異なることを示している。</p> <p>キーワード：外国語学習，再編成，語意表象，意味領域，母語の影響</p> | | | |